



発行所
財団法人兵庫消防協会
神戸市中央区下山手通4丁目16番3号
編集発行人 関山 巧
定価 1部金44円
題字 井戸 知 事

平成十七年度 消防団長名簿

各地区の団長をご紹介します。

(平成十七年七月一日現在、敬称略)

あなたです
火のあるくらしの
見はり役

神戸地区

東灘 志井 一彦
伊藤 藤真
前田 民彦
田中 平章
中野 章雄
兵庫 前田 明
北 須田 和司
長 黒江 爲博
須磨 黒江 爲博
垂水 安尾 克己
西上 渡邊 真二

阪神地区

尼崎 生越 昭敏
西宮 吉田 昭敏
芦屋 谷口 昭敏
伊丹 岸谷 義雄
宝塚 和野 哲也
三田市 古谷 茂樹
川西市 関山 茂樹
猪名川町 福田 富夫



東播磨地区

明石市 荻野 忠志
加古川市 花房 次郎
高砂市 田利 昭彦
稲美町 橋本 剛昭
播磨町 中廣 治
姫路東 坪田 孝裕
姫路西 金澤 哲
飾磨 梶原 哲
網干 三輪 幹男
家島町 坂本 隆博
夢前町 藤原 耕作
神崎町 大崎 泰彦
市川町 大崎 尚樹
福崎町 岡田 誠吾
香寺町 白石 光廣
大河内町 平岡 芳

北播磨地区

西脇市 遠藤 明
小豆市 小島 伊一
小野市 小林 幸一
加西市 吉田 貴

西播磨地区

吉川町 中西 君一
社野町 吉田 繁一
滝野町 蔵前 清一
東条町 柴崎 彰孝
中 藤本 憲一
加美町 笹倉 政芳
八千代町 梶間 信明
黒田庄町 土井 義博

淡路地区

龍野市 河合 旭勝
赤穂市 望月 義次
山崎町 高井 隆一
一宮町 長野 隆一
波賀町 田名 敏廣
千種町 春名 善貴
安富町 梅田 幸
新宮町 木津 眞人
揖保川町 嶋津 昌郎
御津町 小嶋 雅之
太子町 松本 雅之
上郡町 平谷 順雄
上野町 佐藤 裕三
上月町 藤山 昭

但馬地区

南光町 塩崎 幸夫
三日月町 仲村 貞昭
豊岡 西垣 豪太郎
城崎 日生下 慎一
竹野 山根 昌勝
日高 竹中 正巳
出石 石田 和正
但東 坂岡 政昭
養父市 片岡 稔
朝来市 南 巧
浜坂町 平澤 輝實
温泉町 西村 英作
香美町 本城 繁信

丹波地区

丹波市 藤本 修作
篠山市 坂下 邦男
八千代町 梶間 信明
黒田庄町 土井 義博
龍野市 河合 旭勝
赤穂市 望月 義次
山崎町 高井 隆一
一宮町 長野 隆一
波賀町 田名 敏廣
千種町 春名 善貴
安富町 梅田 幸
新宮町 木津 眞人
揖保川町 嶋津 昌郎
御津町 小嶋 雅之
太子町 松本 雅之
上郡町 平谷 順雄
上野町 佐藤 裕三
上月町 藤山 昭



平成十六年火災概況

兵庫消防課

県内における平成十六年(一月~十二月)の火災概況は次のとおりです。
そのうち五七.〇%が住宅火災です。

出火件数は二二四件増加

出火件数は二,七三二件で、一日当たり七.五件になります。前年と比較すると、出火件数は一一.四件(四.四%)増加しており、そのうち建物火災は二六件(一九.九%)増加しています。

建物火災以外の火災種別をみると、林野火災が四三件(四.三%)、屋外のごみや枯草などが燃えるその他の火災が一〇二件(二二.六%)、船舶火災が一件(二.六%)増加し、車両火災は五八件(二六.五%)減少しています。

また、全火災に占める建物火災の割合は五〇.三%であり、

死者は十七人の減少

死者数は六九人で、前年に比べて十七人減少しています。火災種別毎にみると、建物火災では五十八人、車両火災では六人、その他の火災では十三人の死者が発生しています。

また、死者のうち六五歳以上の高齢者は三五人で、全死者の五〇.七%を占めています。

なお、死者の発生した経過で主なものは、逃げ遅れ二三人、放火自殺二十人です。

焼損面積、損害額ともに増加

建物火災の焼損面積は六一,〇五四㎡で、前年に比べ一一.一、

二八㎡増加しています。林野火災の焼損面積は三,一三一㎡で、前年に比べ二.二一㎡増加しています。

なお、火災による損害額は四五億九,三九八万円で、前年に比べ五億六,九二〇万円増加しています。

原因別出火件数を見ると、「放火」によるものが四二四件で、出火件数のうち一五.五%を占めて最も多く、平成八年から九年間連続して出火原因の第一位となっています。

次に多いのが「たばこ」二九三件(一〇.七%)、「ごんろ」二五二件(九.二%)と続いております。出火原因の上位三位で全体の三五.五%を占めています。

以下、「放火の疑い」二三二件(八.五%)、「たき火」一六七件(六.二%)、「火あそび」一一四件(四.二%)の順となっています。

平成16年(1~12月)の県下における火災概況

出火件数(件)	建物	1,375	死者数(人)	建物	50
車両	293	車両	6		
船舶	7	船舶	0		
航空機	0	その他	13		
その他	909	合計	69		
合計	2,731	建物	291		
焼損棟数(棟)	全焼	288	林野	5	
	半焼	122	車両	35	
	部分焼	533	船舶	1	
	ほか	794	その他	41	
	合計	1,737	合計	373	
建物焼損床面積(㎡)	54,198	建物	4,125,749		
建物焼損表面積(㎡)	6,856	林野	2,113		
林野焼損面積(a)	3,131	車両	134,752		
罹災世帯数(世帯)	全損	209	船舶	19,720	
	半損	95	航空機	0	
	小損	872	その他	307,842	
	合計	1,176	爆発	3,813	
罹災人数	3,146	合計	4,593,989		

消防団発足五十周年を

迎えて

猪名川町消防団長
福田 富夫



昭和三十年四月十日の町村合併により、猪名川町が誕生しました。併せてその年の五月二十五日に川辺郡猪名川町消防団が発

足し、今年で五十周年の節目を迎えることとなりました。当時のお話を諸先輩の方々から拝聴しますと、その時々のご苦労が垣間見られます。

当時は現在のように常備消防が設置されておらず、また資機材も十分整備されていませんでした。その中で当町の防災は一手に消防団に委ねられており、火災や台風などの水害に対応すべく団員一人ひとりが誇りを持って努力していたと思われま

古くは昭和二八年の奥川辺・有馬水害、伊勢湾台風、また死者二名を出した昭和四七年の梅雨前線集中豪雨と幾多の災害に、郷土愛と消防団員としての使命感で、その時々状況に応じて必死に取り組んでこられました。

さて、私は平成十五年に第十二代団長に就任し、先輩の方々の功績を汚さぬよう消防団の目的達成に向け、歩み始めたところでございますが、当消防団におきましても時代の流れや生活習慣の変化から、団員の高齢化やサラリーマン化が進み、団員数の定数維持や昼間における出動団員の確保が課題となつて

います。これらを解決するため、積極的に女性消防団員の勧誘や、各分団における昼間の情報連絡体制を整備するなど内部の連携を強化しているところでです。自主防災の基本理念を再認識し、安全で安心して暮らすことのできるまちづくりを目指して、当消防団が地域防災のため益々活躍できることを願っています。

活動に大きく支障をきたすことになり、地域住民は安心して生活をするのが出来なくなるのでは無いかと考えられます。今しばらくは大丈夫かと思いますが、将来を見据えます時、非常に重大な問題であると思

消防団今昔

④

地域の防災に消防団OBも責任重大に・元千種町消防団長 清水 精一



昭和三十一年一月に千種町消防団員に拜命以来平成四年三月に退団するまで三十七年間、そうして今日現在で五十年有余の歲月

が経過をいたしました。私が昭和五四年四月に団長に就任時は千種町の人口四六〇〇〇人、消防団員三九〇名余でありました。現在では町の人口四〇〇〇人、消防団員二三〇名と二五年間余

で、一六〇名余りが減少しているのが現状です。機動力の充実・機構改革等の関係で、ある程度の団員の減少も特に消防防災活動には支障はないかも知れませんが、私達の様な山間地域では山林火災等の多発が予測され、どうしても人力に頼らざるを得ない関係から、絶対数の団員確保は必要不可欠であります。今後更に少子化が進む中で、消防団員の減少は火を見るまでも無く明らかであります。このまま団員減少が進めば、地域の防災

に重大な問題であると思。私も現在は消防団のOBとして、また兵庫県まとい会の一員として、地域防災の一役を担っており、ここでございすが、将来を考えると、消防団OBの役割も今後益々責任重大になることは間違いありません。又、合せて、地域住民の一人ひとりが防災に対する認識を今一度一考を要する時代が来たのではないのでしょうか。

地区通信

「住民の誰もが救急隊」を目指して

応急手当指導員養成講習を受講

姫路市飾磨消防団

姫路市の南東部を管轄する区域の中には、東西十四kmの海岸線に沿って、重化学工業を主体に危険物施設を多数抱える姫路臨海地区特別防災区域がある一方、潮干狩りや海水浴が楽しめる、海岸や小高い山林が点在しています。

消防団員は、消火活動のほか、地震、風水害等、大規模災害での救出救助、避難誘導、災害防護活動など地域防災のリーダーとしての役割がますます期待されています。防災活動に必要な知識、技術を更に習得し、市民の負託に応えるとともに、地域の防災活動のリーダーにならなければなりません。

当団は、「常に消防団は地域の防災リーダー」をスローガンに、団員に応急手当指導員養成講習を順次受講させ、地元住民に更なる応急手当の普及を図り、「住民の誰もが救急隊員」になれるよう普及啓発に努めてまいります。

近年、国内外では大規模な自然災害や事故等が頻繁に発生し、甚大な被害を受けています。尼崎市で発生した列車脱線事故でもご存知のように、多くの方々が犠牲になっていきます。そのような現場において、一番に求められるのは、迅速な救出救護と応急手当であり、その現場周辺の住民の力が必要不可欠となります。

必要な応急手当の基礎実技、その他の応急手当の基礎実技を一日かけて受講します。二日目、三日目には、指導要領として救命に必要な応急手当の指導要領、その他の応急手当の指導要領、基礎医学、資器材の取扱、要領、指導法、各種手当の組合せ、応用の指導要領等を受講した後、指導内容に関する質疑があり、効果測定の結果、応急手当指導員の認定を受けることができます。

当団は、「常に消防団は地域の防災リーダー」をスローガンに、団員に応急手当指導員養成講習を順次受講させ、地元住民に更なる応急手当の普及を図り、「住民の誰もが救急隊員」になれるよう普及啓発に努めてまいります。



「講習会内容説明①」



「講習会内容説明②」



「AEDを活用した訓練①」



「AEDを活用した訓練②」



「心肺蘇生法訓練」

防火のお話

品川レスカ



「愛と勇気と希望を
もって」
加美町消防団
笹倉 政芳 団長

多可郡加美町は兵庫県のほぼ中心部に位置し、加古川の支流杉原川沿いに細長く延びた、緑豊かで人情味あふれる町です。その中でも笹倉団長は、代表的な人情味あふれる人物です。団長は昭和四九年に入団され、平成七年からは副団長、平成十七年から副団長、平成十七年度は多可郡の協会会長として活躍されております。まさに加美町消防団のエリートともいえる存在ですが、持ち前の優しさからか、本団として活躍される副団

長や分団長に対して、常に気配りし、また、絶えず加美町消防団員一人一人のことを考えておられます。消防行事の際にはもちろん、プライベートの時でも団長に対して敬礼する団員を頻繁に見るのは、こういった団長の人柄によるものだと考えます。ご存知のように加美町も合併により平成十七年十一月からは多可町となります。多可町の消防団がどうあるべきか、地域住民と団員一人ひとりの安全を第一に考え、組織の活性化を図るにどうすべきか、今まさに多可



「団員からの厚い信頼」
福岡町消防団
岡植 誠吾 団長

福岡町は、兵庫県の中播磨地域の中心に位置し、市川中流の両岸に広がり、豊かな自然と日本民俗学を確立した歴史に名を残す柳田國男生家等、魅力あふれる観光のメッカとして、注目を集めています。岡植団長は、昭和六十一年に福岡町消防団に入団、平成十年に本団幹部として副支団長に、平成十四年には支団長に、そして平成十六年に団長として、持ち前の正義感と熱意で真っ向勝負をしてこられました。笑顔絶やさず、いつも真剣

わがまちの団長さん

126

に、何事にも焦らず、騒がず、冷静に判断される団長の指導力は、ずば抜けたものがあり、あらゆる災害・活動においてリーダーシップを発揮され、団員からの信頼は言い表せないほど厚いものがあります。岡植団長が就任されてから約一年半が過ぎましたが、これからも益々ご奮闘いただき、福岡町消防団を牽引していただきたいと思います。

地区通信

「第一回消防操法大会を目指して」

南あわじ市消防団

南あわじ市消防団は、平成十七年一月十一日南あわじ市発足に伴い、緑町、西淡町、三原町、南淡町の四つの消防団が合併しスタートいたしました。三月二十日には、関係者の方々にご列

例年、郡、町で開催していた消防操法大会については、六月十九日の西淡方面予選会を皮切りに旧町単位で四つの予選会を行い、それを勝ち抜いた二二チームで七月二四日に市本大会を開催することとなっております。

席いただき、団員約一〇〇名が参加し結団式を行いました。これまで郡単位で年末警戒、初出式などの行事を合同で開催してきており、幹部同士の親交も深めて来ておりましたが、あくまで別個の消防団としてそれぞれ運営していたため、出動の仕方や行事等の取り組みについて差異があります。そこで、現在のはひと月に一回副団長以上が出席する本部役員会を開催し、市内(管轄区域内)において緊急時、円滑に協力し合えるように、又、消防団全体の向上を目指し調整を重ねております。

操法訓練場についても整備されている方面と整備されていない方面があり、参加チームに練習日程を割り振っておりますが、それだけでは練習が十分でないの、参加チームは近辺のいろんな施設を借りて、第一



回目の大会の覇者を目指し、各チーム必死に練習に励んでいる二〇〇五年の夏です。



「市の風景」

京阪神地域から比較的近距离の位置にあり、八〇年代半ば以降は、J R福知山線の電化及び、

今後、丹波市将来像のテーマである「人と自然の交流文化都市」の実現に向け、いつまでも健康で安心して暮らせるまち、人と人、人と自然が共生し、未来につながるまち、地域を支えるにぎわいと活力あるまちを基本理念に掲げ、新しいまちづくりを進めていきます。

消防団としても、安全・安心のまちづくりのために地域に根ざした活動を展開し、市民の期待に団員一丸となり応えていきます。

北から南から

「人と自然の交流文化都市をめぐりて」

丹波市消防団

地理的な条件により、古くから生活圏を共にしてきた旧氷上郡の六町（柏原町・氷上町・青垣町・春日町・山南町・市島町）が合併し、平成十六年十一月一日に丹波市が誕生しました。

丹波市は、兵庫県の東部に位置し、市内西部を南北に日本標準時子午線（東経一三五度線）が通っています。瀬戸内海へ注ぐ加古川と、日本海に注ぐ由良川の源流域で、日本一低い分水嶺があることも知られています。また、総面積は約四九三平方キロメートルと広域にわたり、兵庫県内では四番目の広さで、周囲を山々に囲まれた緑豊かな環境にあります。

近畿自動車道敦賀線（舞鶴若狭自動車道）の開通とともに、北近畿豊岡自動車道の整備も含めた高速交通ネットワーク網の中に位置付けられ、市民の生活圏が拡大して都市部との交流が活発化するなど、新しい時代を迎えようとしています。

一方、盆地特有の肥沃な土壌にあり、農業が盛んな地域でもあります。なかでも、黒大豆、山の芋、大納言小豆、丹波栗などは、全国的にも有名な農産物となっています。秋にはそうした味覚を求めて、京阪神などから訪れる観光客で賑わいます。また、農業や化学肥料を使わずに行なわれる有機農業にも力を入れており、地元の特産非常利活動法人（NPO法人）が中心となって普及活動に努めています。

丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可郡、北西では朝来市に接しています。瀬戸内海へ注ぐ加古川と日本海へ注ぐ由良川の支流河川（黒井川、竹田川）が流れ、四方を山林に囲まれた盆地となっています。

位置と地勢

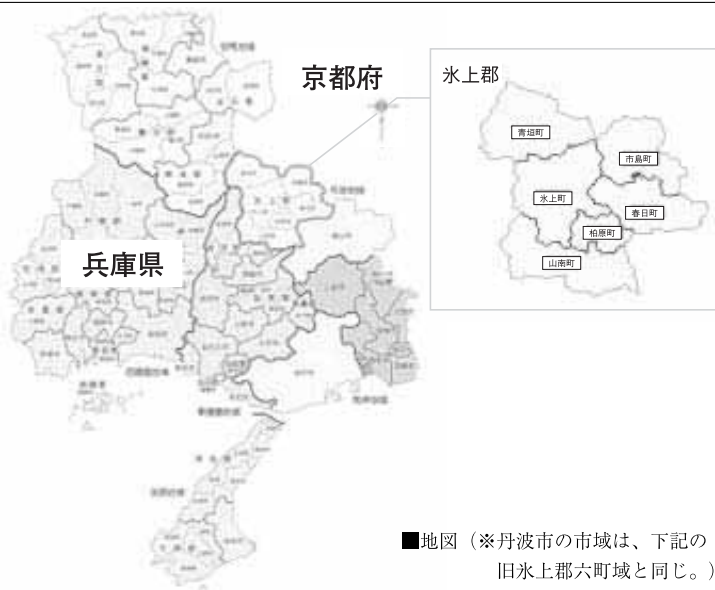
丹波市は、兵庫県の中央東部に位置し、北東では京都府、南東では篠山市、南西では多可郡、北西では朝来市に接しています。瀬戸内海へ注ぐ加古川と日本海へ注ぐ由良川の支流河川（黒井川、竹田川）が流れ、四方を山林に囲まれた盆地となっています。

編集後記

連日厳しい暑さが続いているが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

学校も休みに入り、ご家族で海や山へ行く機会も増え、楽しい夏休みを過ごされることでしょう。毎月「北から南から」で紹介される各市町の施設などを訪れてみるのもいいかもしれませんね。

さて、今月号は平成十七年度消防団長名簿を掲載しております。また、消防団今昔には、元千種町消防団長清水精一さん、猪名川町消防団長福田富夫さんより寄稿いただきました。厚くお礼申し上げます。



■地図（※丹波市の市域は、下記の旧氷上郡六町域と同じ。）

消 防 団 服

- 甲 種 日毛・帝人・東レ団服・作業服・制帽
 - 乙 種 刺子・木綿
- ハッピー・ズボン・腹掛・革バンド
- 附属品一式

キンバイホース 兵庫県特約店

株 式 三 浦 消 防 会 社

姫路市竜野町1丁目1番地
電話 (姫路) 92-0447
(0792) 98-8663

- ・操法最適ホース：コンベVコスモAJ
- ・小型動力ポンプ：ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車（標準型・全自動型）
- ・消防ポンプ自動車（モリタ）
- ・消防用資機材全般

総合防災コンサルタント
有限会社 西垣消防器具製作所
〒669-5213 兵庫県朝来郡和田山町玉置461
TEL: (0796) 72-3131
FAX: (0796) 72-3132
E-mail: fp-nsgk@woc.2net

吉谷式消防ポンプ自動車

営業品目

- | | |
|---------------|---------------|
| 屈折梯子付消防ポンプ自動車 | 消防救助工作車 |
| 化学消防ポンプ自動車 | 小型ポンプ積載車 |
| 水槽付消防ポンプ自動車 | シバウラ小型動力消防ポンプ |
| 普通型消防ポンプ自動車 | 各種消防用品 |
| 高発泡機付消防自動車 | 消防用ホース |

株 式 吉 谷 機 械 製 作 所

本社・工場 鳥取市古海356の1
TEL (0857) 23-2211(代)
FAX (0857) 27-1766

世界へ羽ばたく!

GMの消防自動車

大槻ポンプ工業株式会社

●本社・営業本部
〒623-0021
京都府綾部市本町7丁目6-2
TEL (0773) 42-0681(代)
FAX (0773) 42-9229

